

1. 授業の概要

科目：経済学 3・経済思想、後期・木曜 3 限

授業題目：人間の経済（human economy）

授業のキーワード：生計（livelihood）、生活の質（quality of life）、ディーセントワーク（decent work）

授業の目的：現代の経済を人間生活にふさわしい本来の人間の経済へ回復させるという問題意識を基礎に置き、21 世紀の経済社会が直面する諸課題と、未来への展望を捉えることができるようになる。

授業の到達目標：(1) 生活や地域社会に関する基礎的な文章を作成することができる。(2) 経済学、生活学、社会政策学等に興味を持つことができる。

愛大学生コンピテンシーとの関連：○個別の知識や技能を相互に関連付けながら習得できる。○習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立てたり、適切に表現（記述・口述）できる。

授業概要：20 世紀の日本では経済効率至上主義で構築された社会システムのなかにあって、「人間としての尊厳が保障される生活と働き方」が見失われ、家族や地域に本来あるはずの人間同士の支え合いを失うこととなった。本授業では、家事やボランティア活動、非営利企業など非市場領域における経済活動も視野に入れ、すべての人間にとって尊厳ある生き方・働き方を可能とする社会を構築するための方策を探究する。テキストは宮本太郎著『共生保障（支え合い）の戦略』（岩波新書、2017 年）。授業時間外に授業における発表及び討論のための準備を行う時間（毎回 3～10 時間）を持つことが必要である。

受講者数：14 名（社会科教育専修 3 年 6 名、人間社会デザインコース 3 年 7 名、科目履修生 1 名）

授業の進捗：受講者の熱心な授業参加により、当初計画したスケジュール通りに進行した。

2. 授業評価アンケート：結果と分析

下記の授業評価アンケートは授業者が作成した。

回答者数：8 名

アンケート結果：

(Q1) 本授業は下記の項目のどれに役立ちましたか。

(大いに役立った) → (役立たなかった)

	5	4	3	2	1
知識の修得	2	5	1	0	0
技能の修得	1	6	0	1	0
思考・判断の修得	6	2	0	0	0
関心・意欲の修得	6	1	1	0	0

(Q2) Q1 で「役だった」と答えた項目について、具体的にどのようなことを修得しましたか。(抜粋)

○自分の身の回りの問題から社会の大きな問題まで考えてみようといういい機会になった。

○それぞれの地域の実情に合った政策を行っていることを知れた。

○支える側を支え直す必要性を新たに提示され、自分の視野が広がった。「共生」の形が見えてきた。

○共生が美しく立派な事例ではなく具体的に実行可能な目標として理解できた。

○自分が社会に出た際に、課題解決に役立つ広い視野を修得できた。

(Q3) 教育学部の「地域志向型カリキュラムの整備・充実」にとって経済学で特に重要なテーマ（学習課題）だと考えるものを選んでください。複数可。

○過疎地域問題……8 ○雇用問題… 5 ○貧困問題……5

○子どもの生活……3 ○高齢者の生活…

…0 ○農林水産業の再生……0 ○高速交通（新幹線）整備……0

○グローバル化への対応……0

○その他（具体的に）…… 地域における生涯学習

3. まとめ

アンケートの Q2、Q3 の結果から学生が地域社会の何に関心を持っているかが明確にわかる。未来へ向けて希望ある社会像を創り出す経済教育を探るための授業を今後も試みたい。